

実践報告

西九州大学子ども学部における子育て支援活動  
—「子どもミュージアム」平成25年度の活動報告—

大城あゆみ・西村麻希・田中麻里

(西九州大学子ども学部子ども学科)

(平成27年1月13日受理)

**Child rearing support activities in Faculty of Children's Studies in Nishikyushu University:  
Of fiscal year 2013 "Children's Museum" activity report**

Ayumi OHSHIRO and Maki NISHIMURA and Mari TANAKA

*(Department of Children's Studies, Faculty of Children's Studies, Nishikyushu University)*

(Accepted January 13, 2015)

Key words : Child Rearing Support 子育て支援  
Support Training 支援者養成

## 1. はじめに<sup>1)2)</sup>

本学における子育て支援事業「子どもミュージアム」は、①子育て・子育てのための地域支援活動、②地域に開かれた大学づくり、③保育・教育者を志す学生の実践活動の3つを目的とし、子ども学部新設の平成21年度から継続して実践している活動である。

その統一テーマを「子ども文化の創造」とし、身体遊び、音遊び、おはなし、伝承遊び、科学や身近な自然にふれる活動などを企画実施している。活動は子ども学部子ども学科の授業の一環で実施し、教員指導のもと学生たちによる主体的な企画と実践を行っている。

本報告では、平成25年度（2013年度）に本学で実施した子育て支援活動の活動実績と内容、そして活動後のアンケート結果（保護者、小学生、参加学生）を踏まえ、成果や今後の課題等を報告する。

## 2. 活動実績と内容

### (1) これまでの活動実績

平成21年度から平成25年度までに通算55回開催され、累積延べ人数は1,725名となった（表1参照）。参加回数、参加者数ともに平成23年度以降増加傾向にある。

表1. 年度別子どもミュージアム参加実績

年度	開催回数 (回)	家族 (組)	子ども (名)	参加者数 (保護者+子ども)
平成25	14	167	244	421
平成24	12	165	233	399
平成23	10	70	103	193
平成22	8	116	145	274
平成21	11	92	108	438
計	55	610	833	1,725

### ①参加学生<sup>2)</sup>

#### 【平成21年度】

短期大学部幼児保育学科の「共に学ぶあすなろう」「卒業研究」の受講生で計195名が参加した（表2参照）。

#### 【平成22年度】

子ども学科「教職論」「保育内容指導法（人間関係）」の受講生と短期大学部幼児保育学科の「卒業研究」の受講生で計154名が参加した（表3参照）。

#### 【平成23年度】

子ども学科3年生の「子ども学演習」と短期大学部幼児保育学科の「卒業研究」の受講生44名、計96名が参加した（表4参照）。

#### 【平成24年度】

子ども学科3年生の「子ども学演習」と子ども学科4年生の「子育て支援」の受講生12名、計110名

表2. 平成21年度子どもミュージアム活動内容等

	開催日	曜日	内容	担当	参加家族数	参加人数	参加学生数
第1回	5月27日	水	絵本から学ぶ子育て	高尾 (田中)	9組	18名	15名
第2回	6月17日	水	新聞紙で遊ぼう	木村 川邊	28組	59名	15名
第3回	7月8日	水	Body Talk ってな～に？	丹羽 飯盛	29組	60名	15名
第4回	7月15日	水	楽器で遊ぼう	櫻井琴 金久	25組	54名	15名
第5回	10月21日	水	ベビーカフェ&ミニコンサート	中村・坂井 香川	21組	47名	15名
第6回	10月28日	水	身近な植物との出会い	上赤 平田	11組	24名	15名
第7回	11月4日	水	風船で遊ぼう	永田 佐藤	17組	38名	15名
第8回	11月18日	水	みんなで楽しくリトミック	野口 二宮	11組	23名	15名
第9回	12月16日	水	心と身体のリフレッシュ法	田中 櫻井三	9組	19名	15名
第10回	1月20日	水	オペレッタ「オズの魔法使い」上演	米倉他 櫻井三	27組	59名	30名
第11回	2月3日	水	ブラックシアター	丹羽他 日高	18組	37名	30名
計						438名	195名

表3. 平成22年度子どもミュージアム活動内容等

	開催日	曜日	内容	対象	担当	参加 家族数	参加 人数	参加 学生数
第1回	5月15日	土	読み聞かせ	小学校1・2年	金久(子ども)	6組	17名	14名
第2回	6月23日	水	楽器で遊ぼう	乳幼児	櫻井(子ども)	22組	45名	15名
第3回	7月7日	水	工作遊び「つくって遊ぼう」	乳幼児	木村(幼保)	19組	39名	16名
第4回	7月21日	水	親子deバレエ	3歳~就学前児	日高(子ども)	12組	38名	17名
第5回	10月20日	水	ミニコンサート&ベビー・カフェ	乳幼児	中村・二宮(子ども) 野口・坂井(幼保)	23組	49名	14名
第6回	10月30日	土	自然たんけん	小学校5・6年	上赤(子ども)	3組	8名	15名
第7回	12月18日	土	生き物のふしぎ	小学校3・4年	平田(子ども)	7組	17名	16名
第8回	1月15日	土	ミュージカル「ふしぎの国のアリス」	幼児・小学生	米倉(幼保)	24組	61名	47名
計							274名	154名

表4. 平成23年度子どもミュージアムの活動内容等

	開催日	曜日	内容	対象	担当	参加 家族数	参加 人数	参加 学生数
第1回	5月26日	木	楽器で遊ぼう	乳幼児	櫻井(子ども)	14組	29名	9名
第2回	6月4日	土	生きものたんけん隊	小学生	上赤(子ども)	5組	6名	4名
第3回	6月23日	木	絵本小劇場	乳幼児	高尾(子ども)	13組	29名	7名
第4回	7月28日	木	お話の国で遊ぼう	小学1・2年生	金久(子ども)	3組	9名	5名
第5回 (出前)	9月10日	土	楽つみきで遊ぼう	小学生	佐藤(子ども)	-	27名	7名
第6回	11月12日	土	みんなであそぼう	小学生	松尾(子ども)	4組	6名	5名
第7回	11月19日	土	海の水と川の水のちがいは?	小学3~6年生	飯盛(子ども)	1組	3名	4名
第8回	12月3日	土	紙芝居がやってきた!	幼児・小学2年生	香川(子ども)	6組	18名	9名
第9回	12月17日	土	なんでもふしぎはっけん	小学生	平田(子ども)	10組	22名	6名
第10回	1月21日	土	ミュージカル上演	幼児・小学生	米倉・野口(幼保) 田中(子ども)	14組	44名	40名
計							191名	96名

表5. 平成24年度子どもミュージアム活動内容等

	開催日	曜日	内容	対象	担当	参加 家族数	参加 人数	参加 学生数
第1回	5月24日	木	楽器で遊ぼう	乳幼児	櫻井(子ども)	27	61	9
第2回	6月7日	木	おはなしてたのしい	幼児	金久(子ども)	17	36	10
第3回	6月28日	木	絵本小劇場	乳幼児	高尾(子ども)	16	33	10
第4回	7月26日	木	体をつかって遊ぼう	幼児・小学生	松本(子ども)	31	78	11
第5回	8月28日	火	田んぼの生きものたんけん隊	小学生	上赤(子ども)	5	10	7
第6回 (出前)	9月8日	土	楽つみきで遊ぼう	小学生	佐藤(子ども)	—	19	9
第7回	11月15日	木	親子で遊ぼう	乳幼児	赤星(子ども)	22	45	7
第8回	11月29日	木	“紙”で遊ぼう	乳幼児	田中(子ども)	20	40	9
第9回	12月1日	土	身近なふしぎ	幼児・小学生	平田(子ども)	7	19	8
第10回	12月8日	土	ようこそ紙芝居の世界へ	幼児~小学2年生	香川(子ども)	6	15	9
第11回	1月19日	土	みんなであそぼう	幼児・小学生	松尾(子ども)	4	11	9
第12回	1月26日	土	“木”であそぼう	幼児・小学生	田中(子ども)	10	32	12
計							399	110

表6. 平成25年度子どもミュージアム活動内容等

回	開催日	曜日	テーマ/内容	対象	担当	参加家族数	参加人数	参加学生数
第1回	5月23日	木	楽器で遊ぼう	乳幼児	櫻井琴	17組	36名	9名
第2回	6月6日	木	絵本小劇場	乳幼児	高尾	14組	30名	8名
第3回	6月20日	木	あつまってきた！「おはなしのくに」に	幼児	金久	13組	27名	10名
第4回	7月25日	木	木製おもちゃであそぼう（1）	乳幼児～小学生	田中	26組	69名	9名
第5回	9月7日	土	佐賀はメダカ王国？	小学生	上赤	3組	8名	6名
第6回	10月10日	木	親子で遊ぼう	乳幼児	赤星	25組	54名	7名
第7回	10月12日	土	体を遊ぼう	幼児～小学4年生	松本	7組	20名	9名
第8回	10月24日	木	たのしくあそぼう	幼児	櫻井京	5組	11名	6名
第9回	11月16日	土	木製おもちゃであそぼう（2）	乳幼児～小学生	田中	9組	29名	8名
第10回	11月30日	土	おもちゃをつかってあそぼう	小学生1・2年生	前村	5組	13名	5名
第11回	12月7日	土	お話の世界であそぼう！	幼児～小学2年生	香川	14組	38名	9名
第12回	12月21日	土	“かず”や“かたち”であそぼう	幼児～小学2年生	川上	12組	36名	8名
第13回	1月18日	土	世界のあそびであそぼう	幼児～小学4年生	松井	8組	25名	8名
第14回	1月25日	土	真似る（まねる）力を伸ばそう	幼児	眞田	9組	25名	7名
計							421名	109名

が参加した（表5参照）。

【平成25年度】

子ども学科3年生の「子ども学演習」と子ども学科4年生の「子育て支援」の受講生8名、計109名が参加した（表6参照）。

掃を幼稚園や児童福祉施設等と同じように衛生面や安全面に気を付けながら行っている。当日は開催前に使用教室のレイアウトや全体の動き、安全面等の最終確認を行い、開催後は使用教室の清掃を準備同様に行っている。

（2）平成25年度の実績

①実施方法

西九州大学子ども学部子ども学科3年生の「子ども学演習」の講義内で実施した。平成24年度からは子ども学科4年生の「子育て支援」の受講生も参加している。

募集方法は、4月にチラシを作成し配布した。チラシの配布先は表7に示しているように、本学近郊の公民館、図書館、児童センター、附属の幼稚園等に配布した。チラシ以外には、本学ホームページへのチラシの掲載、活動報告記事の掲載、本年度は夏休み期間中に開催した第4回に関しては、インターネットのサイト「体験イベントin大学」に案内を掲載した。

学生は、開催日によって取り組む期間が異なるが、約1か月前には当日のプログラム、準備する小物やプレゼント、壁面などの準備に取り掛かる。そして開催の約2週間前にリハーサルを行い、ゼミのメンバー同士で互いに意見を出し合い、指導教員の助言を得て修正を重ねている。開催前日は使用教室の清

表7. 平成25年度  
子どもミュージアム  
開催案内 配布先一覧

配布先
三光幼稚園・ほぼら
佐賀市立図書館
佐賀市 中央児童センター
ゆめ・ほけっと
若楠公民館
開成公民館
鍋島公民館
高木瀬公民館
勸興公民館
神野公民館
親子いきいき広場参加者
子どもミュージアム参加者
NCN 会員
学内ラック（1F、3F）
神園キャンパス教職員
神埼キャンパス教職員

②対象

本学近郊に在住している地域の子ども、保護者を対象に実施した。参加の条件として、小学1年生までの子どもは保護者同伴での参加を必須とした。また、参加費（保険料）として毎回1家族100円を徴収した。

第11回に関しては、みやき町社会福祉協議会より活動の見学として30名が参加した。

③場所

西九州大学神園キャンパスの3号館1階3室（子育て支援室、保育演習室、表現スタジオ）を主な活動場所とした。また、活動内容によっては、理科実験室、体育館、美術工芸室を使用して活動を行った。その際には、対象年齢に合わせて子育て支援室内の幼児用トイレ、授乳コーナー等を解放した。

④開催スケジュール

平成25年度は14回開催し、平日は木曜日、休日は土曜日に実施した。表8に開催当日のタイムスケジュールを示す。初年度より木曜開催の回では、子どもミュージアムが終了した12時から14時までは、施設開放の時間帯としており、子育て支援室と保育演習室（遊具、絵本、授乳室、幼児用トイレ、おもちゃ交換台、子ども用ベッド、飲食可能なスペースあり）を自由開放している。

表8. 開催当日のタイムスケジュール

木曜	土曜	
10:15~	9:30~	受付開始
11:00~12:00	10:00~12:00 (10:30~11:45)	ミュージアム開催
12:00~14:00		施設開放(木曜のみ)

⑤活動内容及び参加人数

平成25年度に開催された各回の活動内容は前述の表6の通りである。各回の参加人数を図1に示す。第4回において参加人数が最も多い結果となったが、これは開催日が小学校の夏休み期間中であったことが関係していると推察される。一方、第5、8、10回の参加者が10名前後であり、他の回と比較して少ない結果となった。これらの回に関しては、事前申込みは多くあったものの、きょうだい児が通う保育園、幼稚園、小学校等の行事が重なっているなどの理由でキャンセルが多かった。このことから、可能な限り近隣施設の行事や学校・園行事等を事前に把握した上でスケジュールを組むといった配慮、工夫が必要であると考ええる。

また、冬季（11～1月）の開催に関しては、キャンセルの理由に子どもの体調不良が最も多く挙げられた。

平成25年度の活動全14回のうち、大学の学年暦上の前期（4月～9月）5回、後期（10月～3月）9回であり、後期開催が4回多くなっている。昨年度までは前期、後期ともに同数の開催回数だったが、昨年度7月に開催した体育館での活動が暑すぎたとの指摘が多かったため、後期の開催にした。

開催日程に関しては、幼稚園、小学校の夏休み期間中が参加者数も多かったことから、7月中旬から8月末の開催がニーズとしては高いことが伺えるが、大学の試験期間や実習期間、夏休み期間中は地元へ帰省する学生も多いため、この期間中の開催が困難である。参加者側のニーズと学生のスケジュールが合わないというのは年間計画をたてる上での今後の課題として残るところであろう。

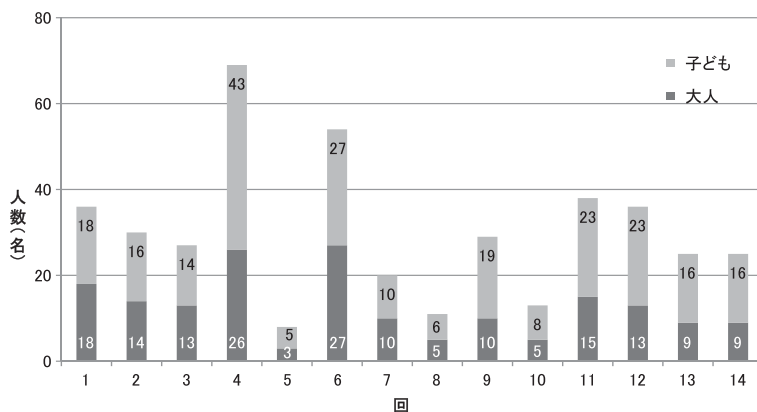


図1. 平成25年度 子どもミュージアム参加人数

### 3. 保護者のアンケート結果

平成25年度における保護者のアンケート結果を以下に示す。

〈アンケート項目〉

- ①保護者の基本情報（性別、年齢、子どもの年齢、仕事形態）
- ②参加回数
- ③本活動に参加した理由
- ④本活動の評価（4段階）および感想
- ⑤本施設に関する気づき（4段階）
- ⑥今後の参加希望
- ⑦今後企画してほしい内容

#### ①保護者の基本情報（性別、年齢、子どもの年齢、仕事形態）

保護者の年齢層は、「20歳未満」が0%、「20～24歳」が1%、「25～29歳」が9%、「30～34歳」が33%、「35～39歳」が46%、「40歳以上」が11%であった。仕事形態は、「常勤（育休含）」が22%、「パート」が13%、「働いていない」が55%、「その他」が8%、無回答が2%であった。

#### ②参加回数

保護者の参加回数は「はじめて」が37%、「2回目」が15%、「3回目」が10%、「4回以上」が37%、無回答が1%であった。

#### ③本活動に参加した理由

保護者の参加理由（複数回答可）は、「子どもが喜びそうだから」が112名、「内容に興味があったから」が81名、「友人の誘い」が21名、「その他」が16名、「友人ができそう」が6名、「大学の見学がてら」が5名、「近所だから」が2名、無回答が1名であった。

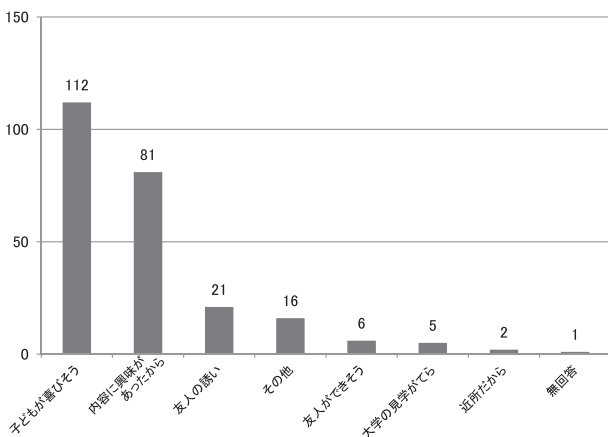


図2. 保護者の参加理由（複数回答可）

名、「友人ができそう」が6名、「大学の見学がてら」が5名、「近所だから」が2名、無回答が1名であった。（図2参照）

#### ④本活動の評価（4段階評価）および感想

「非常に満足」が43%、「満足」が49%であり、およそ9割の保護者が満足と回答している。一方、「やや物足りない」が6%、「物足りない」が1%であり、1割の保護者が物足りないと回答しており（図3参照）、その意見としては、「学生の声が小さい」「進行をもっとスムーズにしてほしい」などの意見が挙げられた。このことから、当日の活動や動きを想定したりハーサルの重要性が分かる。これらの意見を真摯に受け止め、今後は改善に努めなければならない。

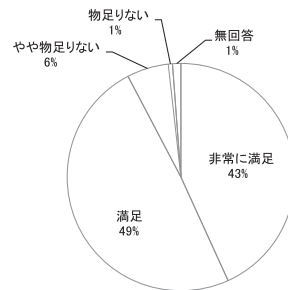


図3. 保護者の満足度

#### ⑤本施設に関する気づき（4段階評価）

キャンパスプラザの環境は、「非常に良い」が66%、「良い」が28%、「普通」が3%、「良くない」が0%、「無回答」が3%であったことから、およそ9割以上の保護者が本施設の環境が良いと感じていることが分かった。自由記述には、「トイレにチャイルドキーパーがあると良い」との意見が挙げられた。多目的トイレにチャイルドキーパーを設置しているものの、配置場所が参加者に分かりにくいことが要因として考えられるため、設置案内のアナウンスの徹底や表示を工夫するなど改善策を検討するべきである。

#### ⑥今後の参加希望

また参加したいかという質問では、「ぜひ参加したい」と回答した者が80%、「機会があれば参加したい」と回答した者が19%、「参加したくない」と回答した者が0%、無回答が1%であった。（図4参照）「ぜひ参加したい」と回答した者が80%以上であったことから、本活動への継続参加につながっていることが考えられる。

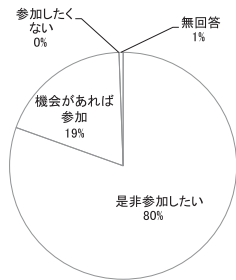


図4. 保護者の今後の参加希望

⑦今後企画してほしい内容

今後希望する企画内容として挙げたのは、「体を動かす遊び」が9名、「親子あそび」が4名、「ダンスなど音楽にあわせて遊べる活動(リズム体操)」が4名、「体操」が3名、その他として、「紙芝居や絵本の読み聞かせ」「手遊び」「うたあそび」「リズムミック」「イベントパーティー」「小学生向けの講座(運動・工作)」「スポーツ教室(サッカー・野球)」「実験など、自宅ではなかなか体験できないこと」であった。また、少数ではあったが「保護者のスキルアップ講座」「障害児かもしれないと分かった時の介入方法」など保護者対象の企画も要望として挙げられた。

4. 子ども(小学生)のアンケート結果

平成25年度の小学生の参加人数は27名であった(第4, 5, 7, 9, 10, 11, 12, 13回に参加)。他の回(第1, 2, 3, 6, 8回)では、小学生は学校のため、参加が不可能であった。アンケートの結果を以下に示す。

〈アンケート項目〉

- ①基本情報(性別, 小学校名)
- ②参加理由
- ③満足度(4段階評価)
- ④今後の参加希望

①基本情報

参加した小学生の学年は、1年生が16名(男5名, 女10名, 無記名1名), 2年生が6名(男4名, 女2名), 3年生が3名(男2名, 女1名), 5年生が2名(男1名, 女1名)であった。

小学校は「神野小学校」が4名, 「新栄小学校」

3名, 「春日小学校」「循誘小学校」「千代田西部小学校」がそれぞれ2名であり, その他には「嘉瀬小学校」「鍋島小学校」など佐賀市内の小学校がほとんどではあったが, 中には「北茂安小学校」「中原小学校」「千代田西部小学校」など佐賀市外からの参加もあった。

②参加理由(複数回答可)

小学生の参加理由を図5に示す。「おうちの人が申込をしていたから」と回答した者が15名, 「おもしろそうだったから」が13名であった。今後は小学生がさらに興味を持つような企画の検討が望まれる。

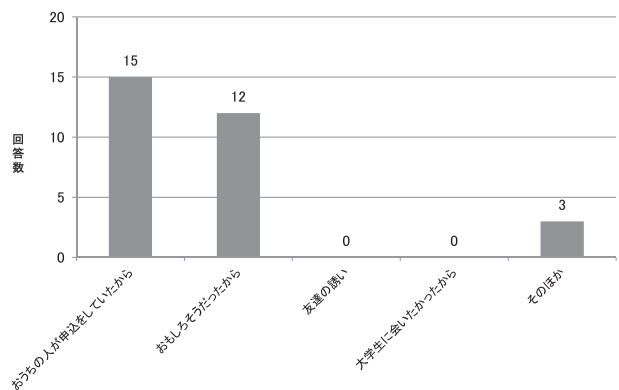


図5. 小学生の参加理由(複数回答可)

③満足度

「とても楽しかった」が89%, 「まあまあ楽しかった」が11%であり, 参加した全員が楽しかったと回答した。(図6参照)

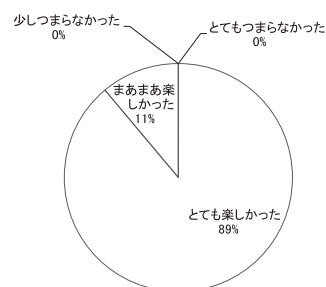


図6. 小学生の満足度

感想として以下の内容が挙げられた。

- ・フラフープ, 跳び箱が跳べて嬉しかった。
- ・輪投げが楽しかった。
- ・お城が難しかったけど, やったら楽しかった。
- ・プレゼントやメダカももらったので良かった。
- ・外で鬼ごっこをしたり, 中でかくれんぼをしたい。
- ・全部楽しかった

以上のことから、本活動を通して“嬉しかったこと”や“楽しかったこと”さらには難しいことに挑戦して達成した“喜び”などの経験ができたことが伺えた。子ども達が今後希望する企画内容としては、「鬼ごっこ」「かくれんぼ」など活動性のある企画が挙げられた。

#### ④今後の参加希望（2択）

アンケート回答者全員が「また参加したい」と回答した。

## 5. 学生のアンケート結果

平成25年度に参加した学生へのアンケート項目と結果を以下に示す（回収率70.8%）。参考までに平成23年度、24年度の学生の回答結果も併せて報告する。

〈アンケート項目〉

- ①子どもミュージアムでの役割
- ②参加後の自己評価
- ③参加して良かったか
- ④機会があれば再参加したいか
- ⑤保育・教育者を志す者として学ぶことはあったか

#### ①子どもミュージアムでの役割

図7に参加学生の役割を示す。平成25年度の学生の役割として、「当日の準備」「前日までの準備」「後片付け」「企画」の順で多かった。それぞれ役割が分担される「子どもと遊ぶ・お世話をする」「絵本を読む、楽器を演奏するなどの活動」「受付」「司会進行」「機械の操作」は少数となった。

#### ②子どもミュージアムへの取組みについての自己評価（4段階評価）

図8に本活動への取組みについての自己評価を示す。自己評価は4段階で評価しており、自己評価が高い順に「4」「3」「2」「1」となっている。平成25年度は「4」と回答した学生が44%（30名）、「3」と回答した学生が47%（32名）であり、自己評価が「3」以上の学生が90%以上を占めた。一方、「2」と回答した学生は7%（5名）「1」と回答した者は2%（1名）であった。名昨年度同様、自己の振り返りや省察が十分かどうかは測っていないが、実践活動を通じて自己の課題発見や達成感が自己評価の高さに影響しているのではないだろうか。「2」「1」と回答した学生でも学ぶことはあったと回答し、具体的に「子どもの発達段階によって出来ることの違いが大きい」「未満児の対応の難しさ」「保護者への気配りや子どもとの接し方」と挙げている学生もいた。しかし中には目的意識を明確にできずに参加していた学生もいたのではないだろうか。

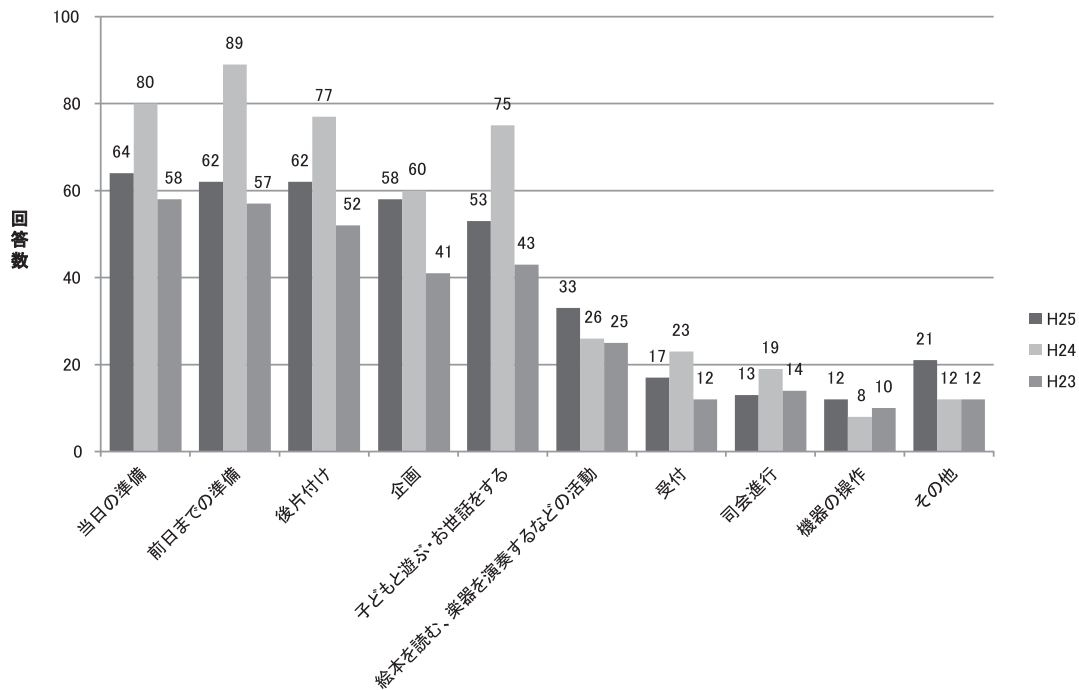


図7. 参加学生の役割（複数回答可）



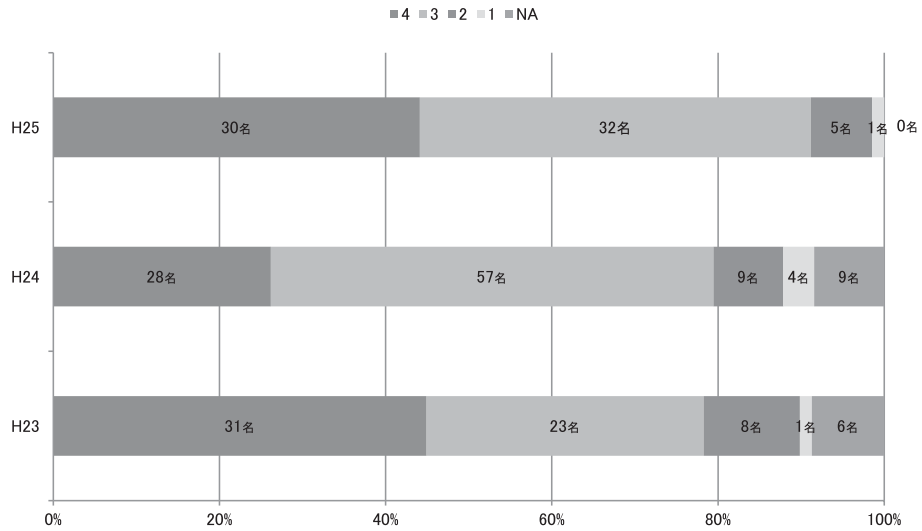


図8. 子ども学科参加学生の自己評価

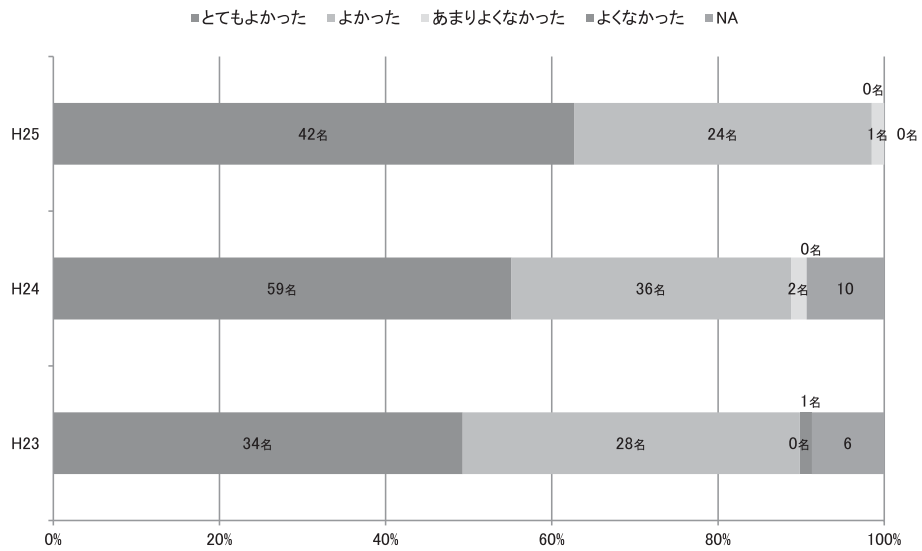


図9. 参加して良かったか

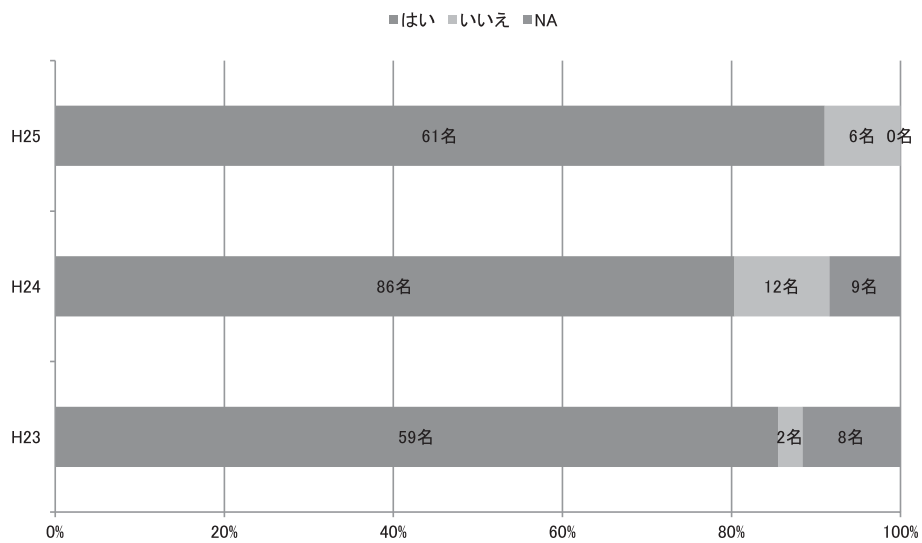


図10. 再度参加するか

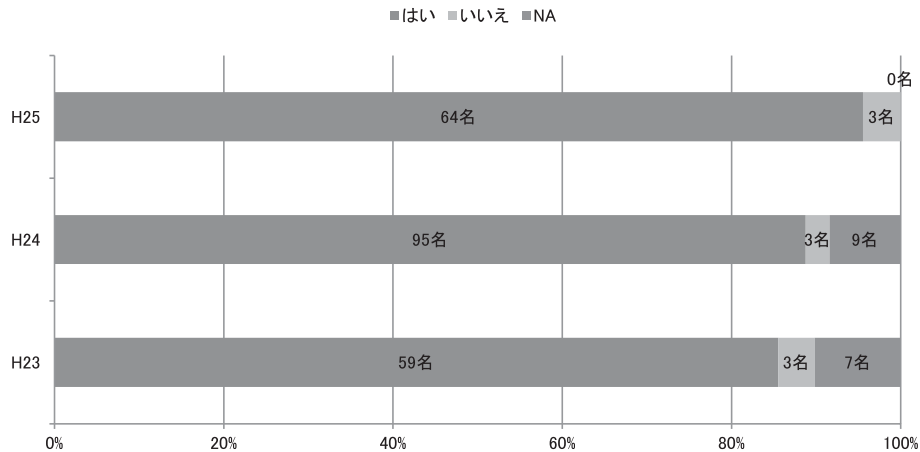


図11. 保育・教育者を志す者として学ぶことはあったか

表9. 参加学生の保育者・教育者を志す者としての気づき

分類	項目	H23	H24	H25	計	Ex)
子どもに対する気づき	学生自身の気づき					
	表情の作り方	0	1	0	1	
	前で話す際の話し方や声量（役になりきる含む）	3	2	6	11	子どもに合わせてゆっくり話す、アドリブを行えるように情報や知識を持っておくことも大切だと学んだ。
	絵本の読み方	2	1	1	4	
	子ども達への声かけ、接し方、コミュニケーションの取り方	13	14	16	43	声のトーン、目線、表情、手振りなど細かな部分にも意識を持ってすることが大切だと思った。
	発達段階にあわせた内容の大切さ	1	6	16	23	対象年齢に合わせた絵本選びの大切さ。
	子どもの視点からの予想（質問など）	1	0	9	10	子どもの行動について予想を立てる必要性、それに対する様々な対策が必要であることを学んだ。
	異年齢の子ども達への関わり方	5	7	7	19	年齢別で全ての子が楽しめるように考えること。
	子ども達に分かりやすく伝えることの難しさや方法	6	6	4	16	小学校低学年には説明が難しかった。
	子どもの発想を受けとめ遊びを広げる工夫が必要	1	0	2	3	楽しく体を動かすためには、子どもたちが何を要求しているのかを読み取れるかがポイントだと思った。
子どもの発想力（可能性）に対する気づき	3	2	0	5		
保護者に対する気づき	保護者がいる時の子どもへの対応や援助	1	0	2	3	子どもと関わる際に保護者の目を気にしてしまったり、まだまだ自信のなさを痛感した。
	参加者が楽しく活動するためにはどうするべきか	4	6	1	11	「これを見たらどう思うかな」「こうすればきっと喜んでもらえる」など子どものことをイメージしながら準備した。
	保護者とのコミュニケーション	2	4	4	10	お母さんによっても積極的に参加する方と控えめな方と様々だと改めて分かった。
運営上の気づき	準備の大変さ、大切さ（段取りを考える）	4	8	12	24	本番前に一度試作する必要がある。準備不足を実感した。
	教材研究や活動プログラム編成の大切さ（企画）	5	6	15	26	製作が簡単すぎたため、もっと複雑にするなど工夫が必要だった、生き物を扱う実験の難しさ。
	活動環境への配慮	3	8	9	20	子どもが落ち着ける環境づくり、遊びブースを作る時に安全面を考慮したこと。
	進行が計画通りに進まない時の対応（臨機応変さ）	2	6	10	18	実際に子ども達を目の前にすると予想していた反応とは異なる場合もあるので臨機応変に対応することがとても大切になると学んだ。
	チームで活動する難しさ、大切さ	3	2	7	12	細かい役割分担ができていなかった、人をまとめることの大変さを実感した。
	リハーサル、練習の大切さ	1	2	7	10	準備、練習、リハーサルが不足し、思うように進まなかった。
	全体を見ながらの活動	1	2	1	4	自分の任されたブースだけでなく、子どもたち全体を見る、自分から主張できない子どもへの配慮が不十分で、全員の子どもを楽しませることができなかったのではないかと学んだ。
雰囲気作りの難しさ、大切さ	0	2	3	5	場の雰囲気作りが難しいと思った。	

### ③参加して良かったか

図9に参加して良かったかを質問した結果を示す。「とてもよかった」が63% (42名), 「よかった」が36% (24名) を占め, 「良くなかった」と回答した者が1% (1名) であった。

### ④機会があれば再参加したいか

図10に学生として再度子どもミュージアムに参加したいかを質問した結果を示す。「はい」と回答した者が91% (61名), 「いいえ」と回答した者が9% (6名) であった。

### ⑤保育・教育者を志す者として学ぶことはあったか

子どもミュージアムを通して, 保育・教育者を志す者として学ぶことはあったかという質問には, 96% (64名) の学生が「はい」と回答した (図11)。具体的な内容は表9に示す。表9では, 「発達段階にあわせた内容の大切さ」について学んだと回答した学生が, 平成23年度が1名, 平成24年度が6名, 平成25年度が16名と年度を重ねるごとに増加傾向にある。これはゼミ内で3年, 4年のつながりができており, 昨年度子どもミュージアムを経験した4年生がプログラムを立てる際にアドバイスをしている様子が伺える。また, 教員も今までの経験を踏まえて学生指導に当たっていることが伺える。

## 6. おわりに

昨年度の報告にて挙げられた検討課題

- 1) 平日の全体活動後の施設開放時間帯 (12~14時) の有効活用
- 2) 乳幼児と小学生 (きょうだい児対応含む) の合同プログラムの検討
- 3) 学生のスキルアップに向けた検討

1) では, 施設開放の時間帯 (12~14時) は学生や教員等は介入していなかったことから, 介入を検討した。結果, 現在この時間帯は保護者と子どもが食事をしたり, 遊んだり, 保護者同士で会話したり自由に活動しており, このスタイルが定着していることから, 午前中は学生によるプログラム活動, 午後は自由な時間と住み分けができているのではないだろうか。

2) に関しては, 昨年度は合同プログラムが5回

であったが, 平成25年度は6回に増えている。また, 幼児のみ, 小学生のみの活動でもきょうだい児がいることで参加者より問い合わせがあれば対象年齢以外でも積極的に受け入れている姿が見受けられる。

3) に関しては学科全体での具体的な検討は行っておらず, ゼミの担当教員に一任しているのが現状である。しかし, 子育て支援担当以外の教員も今までの活動経験を踏まえて, 子ども達へのかかわり方や効果的な教材研究の仕方等を具体的に指導している様子が伺え, 学生のスキルアップにつながっているのではないだろうか。

萩尾ら<sup>3)</sup>は, 子育て支援活動を通して, 利用者数の増加や相談の多様さ等から子育て支援に対するニーズの高さを述べている。先述した保護者アンケートでも “障がい児かもしれないと分かった時の介入方法” や “クレーマータイプ etc の親との対応方法” などが企画して欲しい内容として挙げられていることから, 保護者が抱えている育児への不安や悩みは多様であり, 支援を必要としていることが伺える。しかし, 学生アンケートでは子どもに対する気づきは多く挙げられていることに対して, 保護者に対する気づきは少ないのが現状である。古賀ら<sup>4)</sup>は「学生指導」と「育児不安への支援」を両立することの困難さを課題として挙げており, これは子ども学科でも課題といえるのではないだろうか。子ども学科の子育て支援活動も, 保護者の不安や気持ちを察し, どのような支援が必要とされているのかを踏まえて, 対応可能な取り組みを検討, 試行していく必要があると考える。

## 参考文献

- 1) 田中麻里, 大城あゆみ 西九州大学子ども学部における子育て支援活動「子どもミュージアム」の平成24年度の取組み 西九州大学子ども学部紀要 第5号 2014年 pp. 87-95
- 2) 田中麻里, 大城あゆみ 西九州大学子ども学部紀要 第4号 2013年 pp. 54-60
- 3) 萩尾ミドリ, 池田可奈子, 椎山克己 久留米信愛女学院短期大学研究紀要 第34号 2011 pp. 117-124
- 4) 古賀理, 小川鮎子, 牟田常文, 松本勇治, 村岡直子, 東内瑠里子, 吉牟田美代子 佐賀女子短期大学研究紀要 第42集 2008 pp. 11-18